

## 更に安全・安心・快適・便利に①(4車線化・追加IC)

- 4車線化した区間は、所要時間が**約2割短縮**、通行止め回数は**約9割減少**。重大事故が減少したことで死傷事故率は**約8割減少**。
- 追加ICが開通したことで、流山市では**土地利用が変化**。
- 現在、4区間約20kmで**4車線化事業中**、追加ICを**6箇所整備中**。

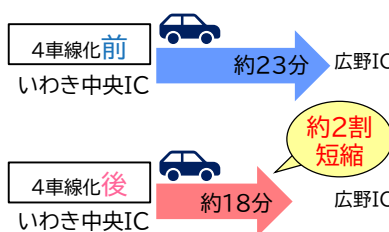
### 4車線化・追加IC・スマートICの整備状況



### 4車線化によって期待される効果

#### ●低速車両による速度低減の改善

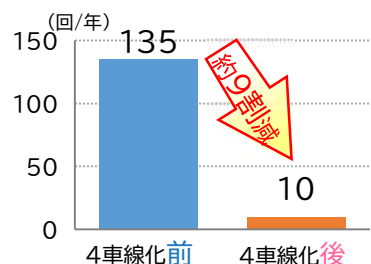
<所要時間の変化>  
常磐自動車道(いわき中央IC～広野IC)



【資料】ETC2.0プローブデータ  
2018年・2023年10月に同区間を通過した車両の所要時間を基に算定

#### ●通行止め回数の減少

<通行止め回数の変化>  
常磐自動車道(いわき中央IC～広野IC、山元IC～亘理IC)



【資料】NEXCO東日本通行止めデータ  
[開通前]2018年 [開通後]2023年

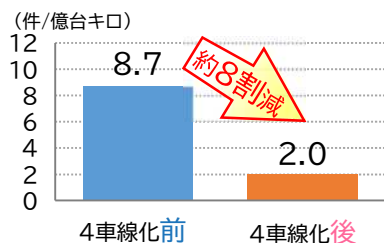
#### ●対面通行による重大事故の減少

中央分離帯に防護柵が設置されることで、反対車線に飛び出す重大事故が減少します。



#### <死傷事故率の変化>

常磐自動車道(いわき中央IC～広野IC、山元IC～亘理IC)



【資料】NEXCO東日本交通統計  
[開通前] 2018年 [開通後] 2023年

### 追加ICの効果(流山ICの例)

#### ●流山IC周辺の土地利用の変化



【資料】国土地理院地図を加工して作成



物流施設の  
声  
ヒアリング結果  
(2024年12月)

- 首都圏への近接性と東北からの輸送拠点の需要があり得ると判断し、流山IC周辺に物流施設を立地しました。
- 常磐道を利用することで、ターミナルとしての付加価値提供が可能となり、茨城など北部から首都圏配送量が向上しました。